

Case 11-2007: A 59-Year-Old Man with Neck Pain, Weakness in the Arms,  
and Cranial-Nerve Palsies (Volume 356; 15)

頸部痛、右上肢の脱力、脳神経麻痺を来たした59歳男性

【本症例の問題点】

**#1 上肢・頸部の神経症状**

入院5週間前に項部硬直が出現。その後、頸部痛、上肢の脱力・しびれが出現し徐々に増悪。入院前日には右側共同偏視および両側脳神経障害（左眼瞼下垂、複視、左眼球運動障害）が出現した。腱反射は右上肢で低下、左上肢で亢進。左Babinski反射(+)入院4日目には構音障害が出現した。

**#2 脊髄・脳神経のMRI所見**

MRI上、T1強調像にて両側動眼神経、三叉神経が高信号であった。また下部胸髄から馬尾にかけて脊髄軟膜がGdにより増強された。

**#3 発熱**

入院5週間前に項部硬直に伴う39.4℃の発熱あり。抗生剤にて5日で軽快したが、入院後8日目以降、再び最高37.9℃の発熱がみられた。

**#4 呼吸障害**

入院4日目に呼吸困難が出現。3.0~3.7lであった肺活量が2.8lに低下し、胸部XPにて両側肺底部に無気肺を伴う実質陰影を認めた。その後呼吸状態は悪化し、7日目には肺活量1.0l、SpO<sub>2</sub>はroom airで84%、酸素吸入下で93%であった。気管挿管のうえ人工呼吸管理となった。

**#5 髄液中の単核球増加**

入院時、髄液検査にてリンパ球、単球が高値であった。PCR法で免疫グロブリン重鎖遺伝子の再構成がみられ、B細胞のクローン性増殖が疑われた。

**#6 糖尿病**

1年前に糖尿病と診断され、SU剤であるglipizideを服用しているが、血糖210mg/dlとコントロール不良。

**#7 高血圧**

入院時血圧163/89mmHgと中等度の高血圧である。

**#8 ダニによる咬傷**

ボストン北部の森林地帯に在住しており、過去に何度もダニ咬まれたことがある。